長久手未来まちづくりビジョン（案）

人・場・時をつなぎ、夢をはぐくむ長久手

ー長久手人（ながくてびと）こそ私たちの誇り、
気長に手をかけ、みんなで未来を拓くー

長久手市

２０１５年６月

目　次

1　2050 年　長久手人（ながくてびと）物語 1
1　地域の家で人とつながり、本当のホームタウンに 2
2　第二の人生、文化の家の市民劇団へ 4
3　自然が好きで、大学で学ぶ小さな鳥博士 6
4　年寄りが忙しい、煩わしいまち 8
5　フリーターから農業へ 10
6　好きなアートで海外へ 12
2　長久手未来まちづくり　長期ビジョン 14
1　人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり 17
2　場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり 18
3　時をつなぐ／歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり 19
4　夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり 20
3　これからの展開 21
4　ビジョン作成のプロセス 22
1　長久手の現状 22
2　2050 年頃も現役である若者の意見（若者座談会、中学生作文） 24
2　学識経験者等による意見交換（長久手未来まちづくり懇話会） 25
資料編 27
長久手未来まちづくり懇話会 28
若者座談会 31
市内中学生作文 32
長久手の現状 34

1　2050 年　長久手人（ながくてびと）物語

21 世紀になってはや 15 年。長久手市を取り巻く環境は大きく変化し、我が国は本格的な人口減少、少子高齢社会を迎えています。

長久手市では、しばらくは人口増加を続けると予想されていますが、いずれは人口減少期を迎えますし、少子高齢社会は長久手市においても確実に進展します。そこで、今から時間をかけて長久手市のまちづくりを進めていくため、2050 年という長期を見据えた長久手未来まちづくりビジョンを作成することとしました。

では、2050 年後の長久手、日本はどのような生活をしているでしょうか。情報技術や人工知能の技術が進歩し、直接人と会わなくてもメールやテレビ電話でいつでもどこでも会話ができてしまうのは当たり前、行きたい時間に場所へ連れて行ってくれる乗り物が当たり前になっているかもしれません。

その一方で、直接人とあって会話したり、本物の歴史文化や芸術を体験することがより一層大切になるとも考えられます。一人ひとりが心豊かに暮らせる社会を目指していく必要があります。

このまちづくりビジョンでは、今市内に住んでいる人や働いている人も、大学進学、就職、転勤などを理由に転出したがかつては市内に住んだり働いたことがある人など、長久手に関わりがある一人ひとりを「長久手人（ながくてびと）」と名付けました。

そして、このビジョンの内容について多くのみなさんに関心を抱いていただくため、ビジョンの冒頭に一人ひとりの長久手人が 2050 年にもいきいきと暮らしている姿を想像し、「長久手人（ながくてびと）物語」をまとめました。

１　「地域の家」で人がつながり、世界のホームタウンとなる

Ａさん　38 歳　会社員　男性
・妻と、小学生の子供 2 人の 4 人暮らし

＜“地域の家”との出会い＞

名古屋支社に転勤になって総務課の勧めで長久手市に住んだのが始まりだった。単身赴任で寝るためだけに家に帰る生活だったが、いつも通勤途中に前を通る民家が気になっていた。どうも近所の人たちが集まる場所のようだ。子供からお年寄りまで七夕や餅つき等を楽しむ写真が門の掲示板に張ってある。「どなたでも気軽にお立ち寄りください　地域共生ステーション」と書かれている。

ある晴れた日曜日、久しぶりの休日をのんびり過ごし、ふとあの民家をのぞいてみて、驚いた。赤ちゃんを抱いた若いお母さんが縁側でおばあさんに育児相談しているし、近所の子どもが庭先で遊ぶなか、高齢の男性が庭仕事に精を出している。ぼんやり眺めていたら、食事の支度をしていた年配のご婦人に声をかけられ一緒にお昼ご飯を食べることになった。まるで大家族のような不思議な感じで、居心地がよい。

その後もちょくちょく顔を出すうちに、全然知らなかったご近所の住民と次々と知り合いになった。「おはようございます」、朝の通勤途中も挨拶する人ができるようになって、だんだん自分の街「マイタウン」の感じがしてきた。一人住まいなのに家に帰るのが楽しい。

＜そして、本当のホームタウンに＞

そして今では、家族を呼び寄せて一家４人で長久手に住んでいる。団地育ちの私は、面倒な近所づきあいは要らないと思っていた。でも長久手に来て考えが変わった。最初は不安がった妻も、そんな私がご近所づきあいをしていることに一番驚いていた。地域の年配者と話をしてみると、私と同じように転勤で移り住み、ここで子どもを育て上げた先輩たちも多い。だからこそ、よそ者の気持ちも分かるし気さくでオープンな雰囲気ができるのだろう。

小学校では、一人ずつ自分の好きなものをクラスメイトの前で話す「Show And Tell」の時間があって、おかげで子ども達もすっかり学校にもなじんでいる。それだから長久手の子どもはとにかく「我がまち自慢」が上手で、ポジティブな子どもが多い。

＜そして、世界のホームタウンに＞

そうして、私たち家族ごと地域共生ステーションでお世話になり、妻も子どももご近所に友達がたくさんできた。今では、新参者の私がステーションの運営委員にもなって積極的にまちづくりに取り組んでいる。「自分達のまちは、自分達でつくる」、よく考えれば当たり前のことだ。それができるのはマイタウンという当事者意識を一人ひとりがもって生活してい

るからだと強く感じる。そして歩いて行ける範囲にたくさんの顔見知りがいることの安心感はなにものにも代え難い。シンガポール出身で世界中を移り住んできた私たち一家だからこそ分かる本物のセキュリティーが長久手にはある。外国からの研究者や海外生活経験者も多いこの街は普通にインターナショナルな雰囲気があり、私たちを“外人さん”と呼ぶ人もいない。

そして、地域ぐるみの付き合いは、言葉の障壁も短時間でクリアできる。片言でも理解しようとしてくれるし、元商社のＯＢが私たちをフォローしてくれる。伝統的な祭りにも参加できるオープンなコミュニティは新旧だけでなく内外の壁を崩してくれる。すっかりなじんだ私たち家族はきっと、長久手が“終の棲家”すなわちホームタウンになるだろう。

イメージイラストを挿入

２　文化の家の市民劇団こそが、第二の人生の支える

Ｂさん　56 歳　女性
・夫と 2 人暮らし

＜文化の家の市民劇団に参加＞

私は夫の転勤で長久手に来たのが 15 年前、今ではここが第二の故郷というくらいになっている。２人の子どものうち上の子は２年前に関東で就職し、昨年からは下の子が外国の大学に留学している。子育てを終え、今は週３回パートに出かける以外はゆっくりした日々を送っていた。

そんな時、たまたま文化の家で市民講座があって、講座の後に目に留まったのが、文化の家での「市民劇団員募集」のチラシだった。実は私、子どもが小さい頃には親子ダンスに子どもを連れて出かけていた時期があり、子育てしながらも楽しい日々を送っていた。子どもが大きくなってダンスをする機会がなくなってしまったが、今でも好きな音楽を聴く時には自然と体が少し動いている時もある。募集のチラシには、未経験者でも歓迎と書かれていたので応募した。

＜演劇やダンスを教えられるように＞

市民劇団は文化の家ができた頃に結成されたので、今では 50 年以上の歴史がある。すぐに参加を認められたが、未経験者でも歓迎と書かれているとはいえ、歴史がある劇団で、私みたいにダンスの経験がない私でも続けられるだろうかと最初は不安だった、でも、練習を重ねるたびに魅力に引き込まれ、今では劇団で活動する日が多くなった。

劇団に入ってから何年も過ぎ、公演にもたびたび出演するようになった。今では劇団は私の大きなライフワークであり、主人も私の活動を認めてくれている。劇団で多くの友人もできた。このように活動しているうちに、文化の家の生涯学習講座や市内の小中学校のダンスの時間に講師としてよばれるようになった。

＜移動手段もマイカーから徒歩や自転車へ＞

市民劇団に通うようになってから、生活スタイルが大きく変わったことが一つある。それは、市内での移動にマイカーを使わなくなったことだ。劇団に入るまでは文化の家をはじめ、市内の移動は必ずマイカーを使っていたが、出かけるのは１人だし、健康のためとも思って徒歩か自転車で通うことにした。劇団の練習は夜遅くになることもあるが、自宅から文化の家までには遊歩道が何本か整備されているので、安心して通行できる。

文化の家にマイカーで通っていた時には気づかなかったが、私のように徒歩や自転車の人見れば、あるいはセグウェイ、シニアカートなど、いろんな乗り物を使って通う人がいる。

また、Ｎ－バスを使って訪れる人も案外多い。また、子どもが小さい頃は大きなイベントの時に文化の家の駐車場が満車になることもたびたびあったが、今では満車になることが少なくなった。もう一つ気がついたのが、夏に屋外を通行しても意外と涼しいことだ。なぜなら香流川が近くにあって、遊歩道が緑に恵まれているためである。マイカーで移動していた時にはエアコンが効いた車内にいたので気づかなかったことだ。

ふりかえってみると、劇団に通うようになったことが子育てを終えた後の私の生活をいろんな意味で豊かなものにしてくれた。まだしばらく劇団は続けていこうと思う。

イメージイラストを挿入

３　知の拠点（大学）がそこにあり、自然好きが高じて「鳥博士」になる

Ｃさん　14 歳　中学２年　男性
・両親、小学４年の弟と４人暮らし

＜僕の「鳥図鑑」＞

僕は小さい時に家族と一緒に長久手に引っ越してきた。住んでいる場所はリニモの駅から少し離れた所にあり、僕の家の周りは家がたくさん建っている。でも公園や神社、お寺が近くにあって木や草花が茂り、小鳥がさえずる声が聞こえていい所だと思っている。遊歩道を使って少し遠くの東の方へ行くと、ずっと森が広がり、香流川が流れている。僕は学校が終わると友達とよくこの森へ出かける。森に入り込んでは、鳥や昆虫を追いかけたりしている。週末には、お父さんに豊田、瀬戸など近くのまちの森や、岐阜県、長野県の森などに連れて行ってもらうこともある。

＜携帯１つで僕の「鳥図鑑」＞

両親から、もしもの時のためにとスマホを持たされている。でも、このスマホ１つがあることで、知らない鳥を見つけた時には、これを使って鳥の写真を撮影し、「この鳥は何？」と話しかければ、撮影したものと似た鳥を幾つかインターネットから探し出してくれる。その鳥のことがわかったら、撮影した動画に鳥の名前や特徴をメモ書きする。ＧＰＳと連動しているので、見つけた地点の住所（緯度、経度）や日時、気候などの情報が自動で記録される。こうして、僕が見つけた鳥はすでに 1000 種類を超え、「マイ鳥図鑑」ができている。

＜市内の大学へ＞

「鳥」のことをもっと詳しく知るために、インターネットを使って鳥の研究者を検索し、その人に連絡をとるようになった。その人はヨーロッパの大学の先生だが、その国の言葉がわからなくても、日本語でメールを打てば相手の国の言葉に自動翻訳してくれるので便利だ。その先生に「鳥」の特性を調べたいと相談したら、今は動物の特性を調べるのに自分でも研究できるような方法があり、なんと、そういうことを研究している大学が長久手にあることを教えてくれた。灯台下暗しだ。しかもそれはコンピューターのプログラムを使って動物の行動を研究していると教えてくれた。早速、その市内の大学にメールを出し、大学に来てもいいよということになった。

大学の中を案内され、大学の研究室を案内していただいたが、コンピューター関連の機械が思ったより小さく、モニターがある以外はゆったりとしたお部屋だった。だがそこではいろんな動物の行動を調査した結果を使い、プログラミングをしてデータを取る研究がされているという。僕は、動物とは全然違うプログラムの研究をしている研究者が動物の行動を研

究していることと、しかもその大学が市内にあることに驚いた。

＜いつしか「鳥博士」と呼ばれるように＞

大学に何度も通っていいということになり、僕はプログラムを勉強することに夢中になった。僕はその技術をすぐに覚え、森に出かけてはいろんな鳥の行動を調査し、時には鳥に発信機をつけて行動を追い、その結果を使って鳥の行動範囲などいろんなことを知ることができた。そうした行動も「マイ鳥図鑑」に記録していった。

その「マイ鳥図鑑」のことを見た人から時々、講演依頼が舞い込むが、学校があるので夏休みや冬休みにしか出かけられないのが残念だ。しかし、各地で講演をすることを続けていると、いつしか「鳥博士」と呼ばれるようになった。

でもインターネットで世界の情報をみると、世界中には日本よりも広大な自然がいろんな所にある。僕も将来は、世界各地に出かけて鳥に関する研究者になりたい。

イメージイラストを挿入

４　手間をかけるまちで、年寄りが生き生きと暮らす

Ｄさん　72 歳　　男性　ちょっと偏屈だが地域ごとには積極的
・妻と 2 人暮らし

＜年寄りが忙しいまち＞

世間では「長久手は日本一福祉のまち」なんて呼ばれているが、とんでもない街だ。
わしはもう 70 歳を超えた年寄りなのに、今だに色々な活動にこき使われている。
この街は年寄りでもそっとしてはくれない。高齢者や障がい者の介護サービスをすると、老老介護だと相手から嘆かれることもあるが、おかげでわしは人様の役に立って、かつ自分も元気にしている。障がいをもった方々からお礼を言われるとやはり嬉しくなる、まだまだ隠居しているわけにはいかん。

＜暮らしを支える新しい収入の道＞

2050 年は人口が減り続けており、年金も 21 世紀はじめの半分近くまで減額されている。多くの人はそれを見越して若い時に個人的貯蓄に励んで、それを取り崩して生活している。長久手では何歳になっても仕事をしたいと思えば、収入の道が用意されている。現役時代のノウハウを退職後も地域に生かすことで、一定の収入を得ることは可能だし、長久手市役所も市民に仕事を積極的に出している。市民でできることは市民に任せる精神であり、市民同士で支えある仕組を持っているから可能となっている。

＜わしの妻はスーパーウーマン＞

なんと、わしの妻は 60 歳を超えたのにフルマラソンに挑戦している。実は本格的に走り始めたのは子育てが一段落した 50 歳になってから。長久手にはウォーキングからジョギング、本格的なスポーツジムや競技場まで様々な運動施設が揃っていて、何歳からでもアスリートになれる。医療機関のリハビリセンターや大学のスポーツ研究機関など健康をサポートする体制も整っている。おかげで、わしは妻のトレーナーになって、食事の世話から始まって家事一切をやることになり、今ではすっかり主夫に目覚めている。男の料理教室や野菜づくり教室など、歳をとってから新しいライフスタイルを学ぶ機会もたくさんあって地域の仲間も増えた。

＜手間をかけるまち長久手＞

この街には「長手間大賞」というとんでもないコンテストがある。手間をかけることを大切にする文化があるという。最初は何のことだか訳が分からなかったが、最近わしもわかってきた。地域のつながりがあるということは、そもそも煩わしく手間のかかることなのだ。

だったら手間を楽しんじゃえ、という趣旨なのだろう。先日、わしの孫が中学校で「長手間大賞」をもらったと喜んで自慢に来た。わしには何が嬉しいのだか分からんが、きっとこの子らが大人になる頃にはこの街はもっと良くなっているような気がする。

＜よそ者が歴史や伝統を守り継ぐ＞

わしは地域の祭りの保存会会長もやらされている。そもそも、わしは長久手の生まれじゃない。30 代のときに家を建て越してきたのだが、お祭り好きなものだから、ひょんなことで仲間に加えてもらい、もう 40 年近く経つ。あるとき地域の古老から任せたいと頼まれた。わしは地域の祭りも時代に合わせて変わっていけばいいと思っているが、古老も地元の友人もそれでいいと言ったので引き受けた。今の子ども達や若い親たちがどうしたら関心をもってくれるのか、単なる形じゃなく地域の精神を継いでもらいたい。そのために、伝統を「守る」から「育て」、新たに「創る」ことで新しい世代に継いでいけるようになると思う。長久手には大学生や転勤家族、外国人も多いので彼らに積極的に祭りに関わってもらうように心がけている。インターナショナルな視点があるからこそ、地域の伝統の真のオリジナリティが理解でき、外から来た人々に理解されるに違いない。

長久手は、歳をとってからもイキイキ健康な生活ができる街、体が不自由になっても助け合ってイキイキ暮らせる街だから、「日本一福祉のまち」といわれるのだと思う。長生きするなら長久手がいい。

イメージイラストを挿入

５　フリーターから農業へ　長久手の主要産業である農業を支える

Ｅさん　45 歳　男性
・両親と３人暮らし、兄と姉は関東の大学に進学

＜将来の展望が持てない＞

僕は長久手で生まれ、名古屋市内にある高校と大学を卒業して現在はフリーターとして市内の飲食店でアルバイトをしていた。大学卒業時にいろんな会社の新入社員の募集を受けたがほとんど落ちて、唯一受かった企業に就職するも、長続きはしなかった。収入がないので、しばらくは親許で暮らさざるを得なかった。

自分には５つ上の兄と３つ上の姉がいるが、兄はマスコミ関係の仕事に就き、姉は大学院で研究職に就いて２人とも親許を離れて暮らしている。僕は兄や姉のようにできがよくないため、その後もなかなか仕事が見つからず、アルバイトで食いつないでいた。いわゆるフリーターであった。

＜友人の話を聞いて＞

このような日々が３年ほど続いたある日、中学の時からの友人達に誘われて、久しぶりに食事に出かけた。今の生活を互いに話しあった後、僕の状況を聞いた友人の１人から、市役所の相談窓口に一度行ってみてはどうかとアドバイスを受けた。聞けば、その友人もかつてはその時の僕と同じような境遇で、なかなか仕事が見つからずにふさぎ込む毎日を送っていたが、相談窓口に行ってやりたい仕事が見つかったそうである。その友人の場合、市役所に勤めている職員がたまたま高校時代の先輩で、その先輩に相談して教えてもらったと言う。

＜市役所を訪れて＞

しばらくの間、友人の話がずっと頭から離れずに過ごしていたが、このままの暮らしをしていては将来の展望が見えないので、ある日、アルバイトの前に市役所を訪ねることをした。市役所の相談窓口では、どんな仕事がふさわしいのかわからないことや、なかなか仕事が見つからないことを話した。これに対し、対応してくれたスタッフの方が農業の研修を受けてみないか、研修の募集期限にはまだ数日あるので帰ってじっくり考えてもいいとアドバイスをしてくれた。

＜農業に携わることを決意＞

その日は結論を出せず、数日の間考え、農業の研修を受けることとした。研修は全部で 20 日間、長久手の農業の歴史、作物の育て方など講義と実地を交えた研修だった。一般的にはアグリファクトリーが主流であるが、大地のうえに作物をつくり、太陽を浴び、農薬を使わ

ないなど、安心で栄養価の高い作物を作る農法が見直されてきている。今まで農業のことを全く知らなかったが、企業の人間関係の煩わしさから解放され、生き物との対話は私の性分とあっているようだ。そこにやりがいを感じた訳だ。

＜長久手の主要産業が農業に＞

研修を終えた後、早速、市内で農業法人の求人を探したら１件あったので、連絡をして受け入れてもらうこととなった。まだ研修を終えたばかりで役に立たない時期であったが、興味をもって没頭して取り組んだので、ノウハウが身につき、それが自信となって人間関係もうまくいくようになった。手間をかけることこそがいい農作物を収穫する秘訣である。

長久手の農業は、過去には農業人口が減った時期もあったが、今ではいろんな世代の人が携わって長久手の主要産業になっている。付加価値の高い食材は海外に輸出できるまでになった。長久手市はこれまで人口が増え続けてきたが、近傍諸都市では人口が減少し、余剰な土地が多くある。これを有効に活用することは社会的要請にも合致している。産業は１次→2 次→3 次と発展していくと言われたが、今再び１次産業が注目を浴びている。

イメージイラストを挿入

６　好きなアートで、長久手にいながら世界の仕事を引き受ける

Ｆさん　大学生 22 歳　女性
・１人暮らし

＜大学でも週末もアート作品づくり＞

私は愛知県内の出身で、市内の大学に入学して３年生から長久手で１人暮らしを始めた。大学ではアートを学んでいるが、週末も大学の延長で自分の趣向でアート作品を作っていることも多い。バイトもしているが、バイト料は生活費に充てる他はほとんどアート作品づくりに費やしている。といっても、作品に使う材料の多くは拾って来た木、葉、石などの自然素材で、加工や接着をするための材料の費用なのであまり多くは必要ない。

アート作品をつくる環境として、長久手は大学、美術館もあり、都市も自然もあり、名古屋にもすぐに出られるのでいい所だと思う。

作ったアート作品を動画で撮影する。作品だけを紹介する時もあるが、時には作る工程から撮影する時もある。撮影した動画を動画配信サイトに投稿するが、こうすることで良い作品を作った時には閲覧回数が多くなるので、自分の作品の評価もわかる。

＜ある日、海外の企業から連絡＞

そんなことを続けていた１年前のある日、ある海外の企業から連絡が入った。電話での連絡だったが、今やどこの国でも相手の国の言葉を自分の国の言葉に瞬時に変換してくれる翻訳機能が備わっているので、英語がしゃべれない私だが苦労はしない。相手の人が言うには、わが社のコマーシャルにあなたの作品を使わせてほしいとの依頼だった。しかも、その企業は日本でも知られている企業だ。私はびっくりしたが、いいチャンスだと思い、その話を引き受けることとした。作品の納期は短く、作業は大変だったが、相手の企画案に応じて寝る間も惜しんで作品を仕上げた。先に３次元映像を撮影してバーチャル映像を送り、相手の了解を得てからすぐに航空便で相手に送った。

＜長久手にいて、世界から仲間を集めて、世界の企業をクライアントに、＞

そして、その企業のコマーシャルがテレビやインターネット上などいろんなメディアで配信された。このことがきっかけで、国内外の複数の企業から依頼が来るようになった。幾つかの企業からの依頼に応えるべく、作品づくりに忙しい日々が続くようになった。

今、私は４年生になり、普通なら就職活動にテンヤワンヤだが、この経験を生かし、このままアート作品をつくり続けていきたいと考えている。そして、素材や作風が異なる日本人のアーティスト仲間で工房をつくって、世界を股にかけて仕事をしていく準備をしている。世界に手を伸ばして作品を提供していくために「ロングハンズ」という名前を用意している。

長久手ならではの名前だと自負し、長久手市も世界に売り込んでいく予定だ。そして一定軌道に乗ったら、今度は世界からアーティスト仲間を集め、長久手工房を年に一度集まるハブ工房として機能させ、市民と海外アーティストの交流を促進させていきたいと思う。

イメージイラストを挿入

2　長久手未来まちづくり　長期ビジョン

全体テーマ

人・場・時をつなぎ、夢をはぐくむ長久手

ー長久手人（ながくてびと）こそ私たちの誇り、
気長に手をかけ、みんなで未来を拓くー

別紙のとおり

別紙のとおり

個別テーマ（幸せの四つ葉のクローバー）

1 人をつなぐ／

老若男女がつながる、顔が見える まちづくり

⑴　コンパクトなまちの中で世代を超え、地域を越えて人々がつながる。
⑵　まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。
⑶　いつでも帰ってこられるホームタウンになる。

2 場をつなぐ／

地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

⑴　市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。
⑵　集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。
⑶　市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。

3 時をつなぐ／

歴史文化を継ぎ、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

⑴　地域の歴史と文化を継承し、生涯を通じて学び成長する。
⑵　一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康で生涯を全うする。
⑶　人や地域の成長に合わせて皆で手間をかけるコミュニティをつくる。

4 夢をはぐくむ／

チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

⑴　誰もが何歳になっても役割を担いチャレンジできる。
⑵　若者の夢をまちぐるみで育てる。
⑶　誰でも希望を持って暮らせる。

1　人をつなぐ／老若男女がつながる、顔が見えるまちづくり

⑴ コンパクトなまちの中で世代を超え、地域を越えて人々がつながる。

○原則歩いて暮らせる、コンパクトな市街地を形成することで、「顔の見える」まちづくりを進めていく。

○世代や地域を超えて、市民、市民団体、事業者、行政などが気軽に集まり、語り合うことでつながり、全市の、あるいは地域の様々な課題に対して共通認識を持つ。地域活動をすれば、年齢、働いている時の役職や肩書は関係ない。ゆるい＝自由な人間関係で人々がつながる。

○コンパクトなまちの規模を活かし、全国に発信できる全市民レベルのイベントを皆でつくりあげる。

⑵ まちに誇りを持ち、自ら行動する市民が増える。

○暮らしているまちに対して誇りや愛着を持ち、歴史、健康、福祉などのいろいろな分野で自慢でき、物語のある、誰かに語りたくなることが数多くあるまちにしていく。

○長久手をより良くするために、他力本願でなく、当事者意識（まちの一員だという自覚＝シビックプライド）を持って自ら行動を起こす市民を増やしていく。誰もが一カ月に一時間は地域に関わる活動をする。自分たちでやらなければならないことがたくさん見つかるまちを目指す。

○今後、長久手市の様々な計画を策定する際には、策定プロセスの中で市民が主役となる計画づくりを行う。

⑶ いつでも帰ってこられるホームタウンになる。

○進学・就職・転勤・結婚などの理由で、長久手から一旦市外に出て行っても、帰ってきたいと思えるような帰属意識の高いホームタウンにしていく。

○暖かく送り出し、暖かく迎え入れるホームタウンにしていく。

2　場をつなぐ／地域資源を見つけ、広げて使うまちづくり

⑴　市街地の緑を増やし、丘陵地の自然を守ることにより、人々が憩える緑をつなぐ。

○市街地において区画整理によって減少した緑を増やすとともに、丘陵地の自然を守り、育てることにより、市内全域で人々が憩える緑の空間を広げてつないでいく。

○多様な生物と共生できるビオトープ（生物生息空間）ネットワークを形成する。

○都市と自然のバランスの取れた、都会的発展をし過ぎないまちを目指す。

⑵　集積している教育・研究機能を使いこなし、地域に引きこむ。

○市内および周辺に大学や研究所が集まっていることは長久手の特徴であり、その機能や空間を大人から子供まで使いこなすとともに、大学や研究所のほうから、まちに学生や教員が出て行って（これをアウトリーチ活動という）、市民とともに活動できる環境を整えていく。

○それは大学や研究所に限らず、長久手市文化の家、博物館、美術館などの文化拠点も市民が使いこなし、それらのアウトリーチ活動を地域に引き込んでいく。

⑶　市民の移動を容易にする空間と仕組みをつくる。

○市の東西方向の公共交通はリニモが運行されていることにより充実しているが、市の南北方向の公共交通が不足している。自家用車を使わず、Ｎ－バスの利便性向上や自転車、シニアカート、一般路線バスなど、また将来導入が想定される超小型車や電動二輪車など、様々な手段による移動ができるよう道路等の空間づくり、仕組みづくり（カーシェアリング等）を進める。

○シニアカート、歩行者については安全に配慮して自動車の走行空間と分離するため、遊歩道等の整備を進める。車を心配せずに通行でき、子どもが遊べて大人が憩える多目的な空間づくりを目指す。

3　時をつなぐ／歴史文化を継ぎ育て、健康福祉を通じて支えあうまちづくり

⑴　地域の歴史と文化を継承し育て、生涯を通じて学び成長する。

○地域の歴史や文化などを子どもの頃から学び、伝統的な祭りなどに参加することを通じて継承し、大人になっても学び続けて成長していく。

○伝承や継承にむけて、高齢者等にうまく役割を担ってもらう。

○新たな市民も参加し、時代の変化も受け入れて歴史や文化を育てていく。

⑵　一人ひとりが身も心も健全であり続け、健康で生涯を全うする。

○心身の健康を維持していくために、屋内外を問わずにさまざまな運動できる場を整備するとともに、運動を支援していく体制をつくる。

○ウォーキングなどの軽い運動からジョギング、本格的なスポーツまで、いつでもどこでも運動することで、健康寿命（健康状態で暮らせる年数）を延ばす。

⑶　人や地域の成長に合わせて皆で手間をかけるコミュニティをつくる。

○子どもの成長や独立、親の高齢化など、人や家族の成長変化に合わせて、皆で手間をかけ、地域で支えあうコミュニティをつくる。

○そこには高齢者や身障者、子育てを見守る福祉コミュニティがあり、また地域課題を地域で解決できる、良好な人間関係を構築したコミュニティもあるが、両方の機能を持ったコミュニティづくりをめざす。

4　夢をはぐくむ／チャレンジする人の想いを支え、希望を育てるまちづくり

⑴　誰もが何歳になっても役割を担いチャレンジできる。

〇何歳になっても役割があり、それを担うことで生きがいを育てていく。
〇働きたい人（収入を得たい人）は何歳になっても働ける場（職）があるようにする。
〇長久手に住みながら、世界とつながって仕事をする人を応援する。

⑵　若者の夢をまちぐるみで育てる。

〇若者等がやりたい仕事（小売・飲食店、サービス業、農業など）をできるよう支援する仕組みをつくる。
〇意欲のある若者の起業をする仕組みをつくる。
〇顔が見える働き場をつくっていく。

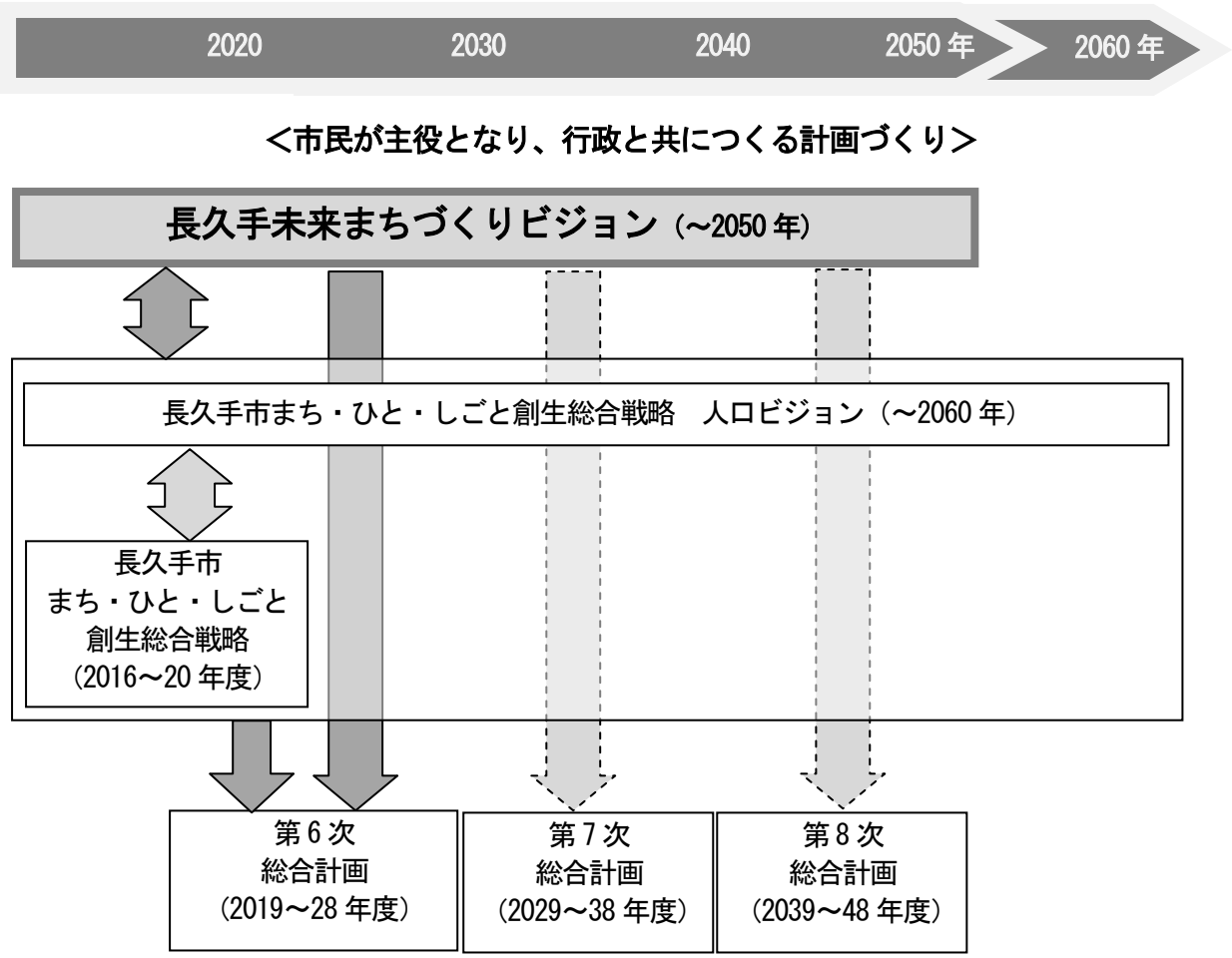
⑶　誰でも希望を持って暮らせる。

〇長久手に住めば何か役割があり、希望が持てるように支援する。
〇障がい者であっても役割を担えるよう支援する。

3　これからの展開

この未来まちづくりビジョンは、今年度策定する「長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョン」と、今後策定する予定の「長久手市第６次総合計画」と関連するものです。

これらの関連計画をはじめ今後長久手市が策定する行政計画では、市民が主役となり、行政と共につくる計画づくりを行います。



4　ビジョン作成のプロセス

1　長久手の現状

ビジョンの作成にあたり、まず、今の長久手の現状がどうなっているか、あるいは今後どのように変化すると予想されるかなどを整理しました。

ここでは6つの視点について整理します。

①人口構造の変化

日本全体では人口減少が進む中、長久手市は全国的にもまれで 2050 頃年まで人口が増加し、それを境に人口減少社会に転ずると予測されます。一方、人口構成は日本全体の傾向と同じく 0～14 歳の年少人口、15～64 歳までの生産年齢人口の減少、65 歳以上の高齢者人口の増加が進みます。

②限られた財源

全国的に財政面の制約が進みます。様々な社会インフラが相当経過年数を経たものが増え、維持管理の経費が膨大になると見込まれます。財源が制限されるのは長久手市も例外ではなく、限られた財源の中でこれまでに整備された社会インフラを有効に活用していく必要があります。

③恵まれた社会資本

市内には、観光レクリエーション施設の長久手温泉ござらっせ、愛・地球博記念公園、文化・芸術施設の長久手文化の家をはじめ、農業、健康・医療、福祉、ものづくりなどの様々な分野で全国、あるいは県内屈指の社会資本があります。さらに市内や周辺の大学も含め「知の拠点」ともいうべき社会資本が集積しています。これらの施設を結ぶリニモやN－バスと言った公共交通もあります。このように恵まれた社会資本を活かしていくことが、将来のまちづくりを考える上では重要です。

④今ある自然を残す

長久手市の特徴として、土地区画整理事業等による計画的な市街地開発と、北部や東部に広がる自然の双方を有し、バランスの取れた市域が形成されています。特に東部や北部を中心に営まれている農業は、遊休農地をあっせんしたり、市民農園の運営などの取り組みにより、都市近郊の農業への取り組みが少しずつ浸透していると考えられます。

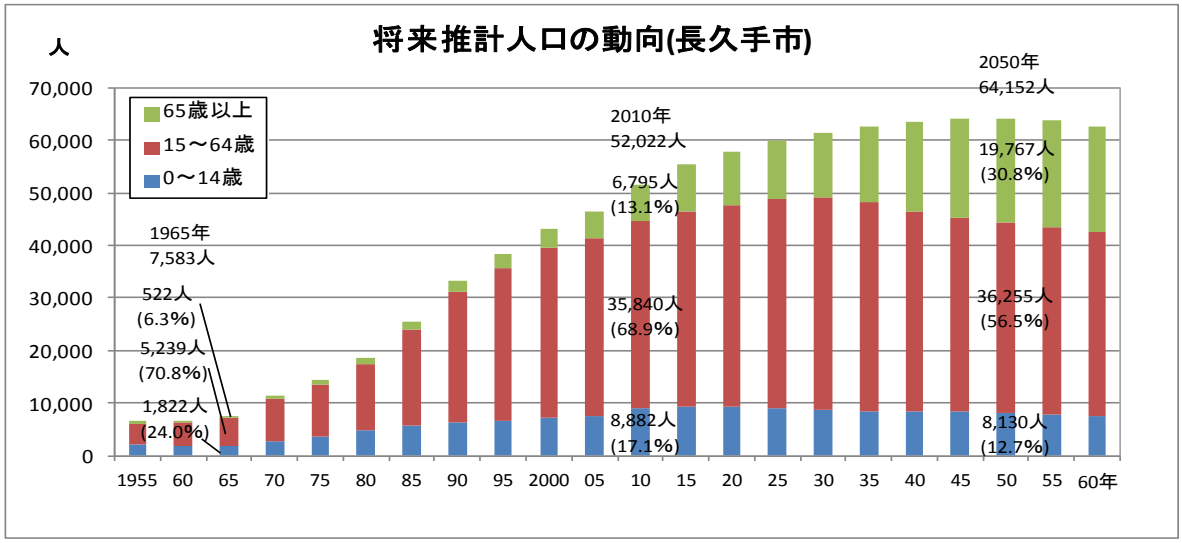
今有る自然を長久手のいいところとして残していくことが重要です。

⑤コミュニティ、人材

長久手市の場合、自治会加入率が近年低下し、人口の半数程度にとどまっています。その一方で、ＮＰＯ認証数は都市規模の割に多く、様々な分野のＮＰＯが活躍しており、地域でのまちづくりの担い手として期待されます。

⑥誇りを感じてもらえるために「幸せのモノサシ」

住む人も、働く人（市外に住んで働きに来る人）も、長久手で住んでいる・働いていることを誇りに感じてもらえることが重要です。長久手市が昨年末に実施した「ながくて幸せ実感アンケート」の結果をみると、「幸せ」の点数が全国より高くなっています。一方、愛着を感じている人は20歳代で多いのに対し、30歳代で少ないのは長久手の課題と言えます。



資料：人口問題研究所の推計に準拠したデータ及び国勢調査を元に作成

２　2050 年頃も現役である若者の意見（若者座談会、中学生作文）

「１　長久手の現状」に続き、ビジョンの作成には 2050 年頃も現役である若者の意見を反映させる必要があるとの考えから、以下の①と②を実施しました。

① 若者座談会：長久手市のまちづくりに関心がある 20 歳代～30 代の若者 10 人に平成 27 年３月１日に集まっていただいて開催。

② 中学生作文：長久手市内の３つの中学校の２年生を対象に、平成 27 年 2～3 月に「長久手の将来」をテーマに作文を書いていただき、計 467 人が提出。

これらの主な意見をまとめると次のようになります。

＜主な意見＞

〇市の認知度を高める

〇遊べる場を増やす

〇公共交通の利便性向上

〇地域間、世代間の交流の向上

〇自然の保全、緑を増やす

〇チャレンジしやすくする

〇（顔が見える、やりたいこと）働く・仕事 ができる

〇歴史（史跡、文化）の保全　　など

３　学識経験者等による意見交換（長久手未来まちづくり懇話会）

市長、市議会議長をはじめ各方面の学識経験者等を委員として 14 名で構成される「長久手未来まちづくり懇話会」を平成２７年１～７月にかけて計７回開催し、このビジョンを検討してきました。

長久手の現状や若者の意見を踏まえて、専門的な見識から意見交換がされ、以下の主な論点が整理されました。

＜主な論点・キーワード＞

○若者の教育（若者の人材を活かす）
○高齢者・女性の社会参画
○コンパクトシティ（顔の見える関係、顔の見えるまち）
○移動しやすいまち
○コミュニティ・コミュニケーションづくり
○シビックプライド、当事者意識の啓発
○健康寿命を延ばす
○世代、地域を超えてつながるまち
○発展しすぎないまち
○今ある自然を残す、社会資本を有効活用
○大学・研究所との連携
○アイデンティティの確立（伝統・文化・歴史）
○「煩わしい」と言えるくらいの人と人との関係をつくる、手間をかける
○人工知能などによりバーチャル化が進んでも、いつの時代も変わらない本物が大切
○チャレンジ文化を育てる

↓

＜主な論点・キーワードを整理＞

■人間

○高齢者・女性の社会参画
○世代、地域を超えてつながるまち
○コンパクトシティ（顔の見える関係、顔の見えるまち）
○コミュニティ・コミュニケーションづくり
○シビックプライド、当事者意識の啓発
○世代、地域を超えてつながるまち
○「煩わしい」と言えるくらいの人と人との関係をつくる、手間をかける

■空間

〇発展しすぎないまち
〇今ある自然を残す、社会資本を有効活用
〇大学・研究所との連携
〇移動しやすいまち
〇人工知能などによりバーチャル化が進んでも、いつの時代も変わらない本物が大切

■時間

〇高齢者・女性の社会参画
〇コンパクトシティ（顔の見える関係、顔の見えるまち）
〇コミュニティ・コミュニケーションづくり
〇健康寿命を延ばす
〇アイデンティティの確立（伝統・文化・歴史）
〇「煩わしい」と言えるくらいの人と人との関係をつくる、手間をかける
〇人工知能などによりバーチャル化が進んでも、いつの時代も変わらない本物が大切

■夢・希望

〇若者の教育（若者の人材を活かす）
〇高齢者・女性の社会参画
〇チャレンジ文化を育てる

資料編

長久手未来まちづくり懇話会

若者座談会

市内中学生作文

長久手の現状

長久手未来まちづくり懇話会

①懇話会のスケジュール

日　時	内容
第 1 回　平成 27 年 1 月 15 日（木）	長久手を取り巻く社会情勢と将来
第 2 回　平成 27 年 2 月 20 日（金）	将来課題の抽出
第 3 回　平成 27 年 3 月 30 日（月）	テーマ設定
第 4 回　平成 27 年 4 月 17 日（月）	テーマ設定
第 5 回　平成 27 年 5 月 14 日（木）	テーマ検討（分科会方式）
第 6 回　平成 27 年 6 月 26 日（金）	長期ビジョン素案の検討
第 7 回　平成 27 年 7 月 31 日（金）	長期ビジョンの検討

②懇話会委員

（50 音順・敬称略）

氏　名	所　属　・　役　職
植松（うえまつ）　良太（りょうた）	トヨタ自動車㈱　総務部　管財･渉外室長
大庭（おおば）　卓也（たくや）	㈱CBCテレビ　調査役　兼　㈱CBCビップス代表取締役社長
加藤（かとう）　義郎（よしろう）	長久手市商工会　前会長
川合（かわい）　保生（やすお）	長久手市議会　議員
久保田（くぼた）　健一（けんいち）	ユニー㈱　開発本部　企画部　シニアマネジャー
小林（こばやし）　英雄（ひでお）	長久手市政策アドバイザー　　元東海銀行専務取締役
近藤（こんどう）　鋭 雄（としお）	あいち尾東農業協同組合　長久手地域総括理事
佐藤（さとう）　啓二（けいじ）	愛知医科大学　学長
下﨑（しもざき）　一洋（かずひろ）	日東工業㈱　経営管理本部　経理部長
髙柳（たかやなぎ）　友子（ともこ）	社会福祉法人　日本介助犬協会　事務局長
谷沢（たにざわ）　明（あきら）	愛知淑徳大学　交流文化学部長
細川（ほそかわ）　修（おさむ）	愛知県立芸術大学　前美術学部長
望月（もちづき）　彰（あきら）	愛知県立大学　教育福祉学部長
吉田（よしだ）　一平（いっぺい）	長久手市　市長

コーディネーター

井澤（いざわ）　知旦（ともかず）	名古屋学院大学　現代社会学部　教授

③懇話会での主な意見

○高齢化、少子化対策、若者の人材を活かす
○今ある自然を残す、社会資本を有効活用
○長久手に誇りが持てるようにする
○キーワードは、「健康」、「福祉」、「情操」
○若者の意見を聞くべき
○「若者の教育」がまちづくりのあらゆる局面で関わってくる。よそに飛び出す人材も認めるべき）
○「まち」「里山」「農業」などのバランスを活かして、若い人の「人育て」をしていくべき。その「場づくり」が重要
○（場づくりの一例として）全国に誇れるイベントを開催する
○抽象的だが「夢が描けるまちづくり」という視点がヒント
○若者座談会や中学生の作文の結果から気になったキーワード、意見について
・街（自体）を育む
・顔が見える街
・顔が見えるという観点での「コンパクトシティ」
・発展しすぎない街
・変わる所と変わらない所のある街
・公共交通について南北方向が弱い
○中学生の作文を大人たちがどう受け止めたか（分析したか）の結果をフィードバックした方がよい。
○考える市民、行動する市民が育ちつながってまちづくりができていくイメージ。シビック・プライドという言葉が出たが、当事者意識を持たないと始まらない。世代、地域を超えてつながる。
○資源を活かして、場合によっては資源、緑などを増やしてまちづくりを進める場をつくる。大学を機能だけでなく施設も資源として活かしていく。公共交通も含めて足をどう確保するか。
○長久手はいいところで、あったかい街。若者から「あったかい」というキーワードがよく出てきた。ホームタウンというか出ていっても、あたたかく受け入れてくれる長久手。
○働く場所をどうつくるか。チャレンジ文化を育てていく。出てきた夢をみんなで育てたり支えていく。
○「煩わしい」まちにしていくべきだと思う。煩わしい中につながりが出てくるのではないか。
○これまでの議論のプロセスが見えると良い。
○ビジョンの全体テーマはシンプルなものが良い。
○今から 35 年後というと社会変化は予想できないが、今よりコミュニケーションツールがさらに発達するという時代の流れを捉えた上で、バーチャルでなくリアル、生身のコミュニケーションの重要性を教育の力で理解させられると良い。
○開かれた教育機関として、大学がフィーチャーされており、これは大学群が存在する長久手市の

特徴として必要なことであるが、大学に限らず小中学校も地域に開かれると良い。

○「健康」「福祉」というキーワードをテーマに入れてもいいのではないか。

○３５年後変わるものがある一方で、変わらないものもあり、その変わらないものをいかに大切にしていくかが大事。３５年後の象徴のような形で人工知能が話題にのぼったが、いつの時代になっても本物が大切。

○「煩わしい」といことをいかにまちづくりに反映し、住民に理解してもらうかを検討しなければならない。少し変えた言葉で「手間をかける」という言葉があった。

○「人をつなぐ」「場をつなぐ」「時をつなぐ」というテーマを言い換えると「人間」「空間」「時間」となり、「手間」を加えてこの４つの「間」を大切にすることが必要。

○時をつないでいくには、「守る」だけでなく「育てる」「創る」「オープンにする」ことが大切。

○「希望」がないと夢を描けない、という話が出た。まちを変えていく仕組みの中で「希望」も入れていくべきだと思う。

○「ゆるく集まれる」「話しネタがいっぱいある」「35 年後も今以上に集まる」「住民主導」などのキーワードが出された。実現するのはどれも煩わしいが、あえて挑んでいく必要があると思う。

若者座談会

長久手市のまちづくりに関心がある20歳代～30代代の若者10人に平成27年3月1日に集まっていただき、座談会を開催しました。

①「住む」、「働く」、「憩う」場所として充足、欠落している点

・万博を契機にライフラインが充実
・暮らすだけなら不自由はなく、いいところ
・買い物、公園の利便性がよく、住宅街も静かで、子育て向きの街
・東部地域は、田園風景も残り、地域の交流もあるが、市が洞地区は別の街のような雰囲気で、地域間の連携がない
・（長久手に来るまで）万博のあった街という認識程度、 地名と場所が一致しなかった
・若者が遊べる場がない
・公共交通（特に東部地区）が不便
・待機児童が多い
・自転車専用レーンがないと危険
・ゴミのポイ捨ても多い
・世代間の交流をつくっていきたい

②35年後、長久手でどんな暮らし（生活）をイメージできるか

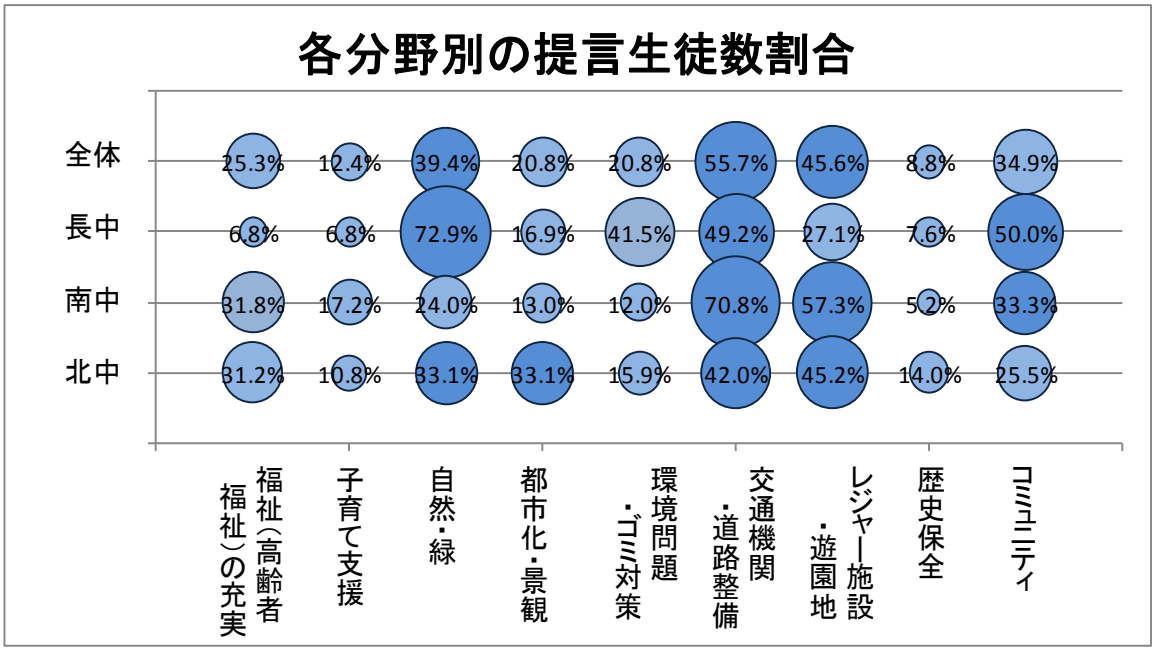
・顔が見える関係での働く場が増えてくるといい
・都市はどこに行っても同じような店が多い。長久手の味を出せる店が増えてくるといい
・自然（田園風景）を残して欲しい
・公共交通が使いやすくなるといい
・発展しすぎない街がいい
・市民同士が集まり、自分たちで変えていく街にしたい
・農業との関わりが持てるといい
・やりたい事を仕事にできるといい
・年配の人との連携

③長久手のまちの将来イメージにキャッチフレーズをつけると？

・帰ってきたい街
・ふれあい（やさしい、あったかい、顔がみえる）の街
・子どもも大人も一緒に、街も一緒に育む
・チャレンジしやすい街
・コンパクトシティ
・活かす街
・変わる所と変わらない所の両方がしっかりある街

市内中学生作文

長久手市内の３つの中学校の２年生を対象に、平成 27 年 2～3 月に「長久手の将来」をテーマに作文を書いていただき、計 467 人が提出されました。そのキーワードを以下のように整理しました（複数回答）。



（提言が多かった分野－全学校）

○交通機関・道路整備　55.7%
○レジャー施設・遊園地　45.6%
○自然・緑　39.4%

（学校別－長久手中学校）

○自然・緑　72.9%
- 発展しすぎない
- 自然の体験施設
- クリーン＆グリーンタウン

○コミュニティ　50.0%
- 住む人が自分のまちづくりに協力
- 高齢者が増えても互いに助け合う
- 交番の設置

○交通機関・道路整備　49.2%
- リニモの無料化、マナカ利用
- Ｎ－バスの増便

(学校別－南中学校)

○交通機関・道路整備　70.8%

・リニモの値下げ、運行経路の拡張
・Ｎ－バスのオンデマンド化
・信号機、横断歩道、ガードレール、歩道橋設置などの交通安全対策
・歩道の段差解消

○レジャー施設・遊園地　57.3%

・映画館、ボーリング場
・モリコロパークのテーマパーク化、遊園地の誘致

○コミュニティ　33.3%

・独居老人の見守り、あいさつによるご近所づきあい
・防犯カメラ

(学校別－北中学校)

○レジャー施設・遊園地　45.2%

・映画館
・モリコロで子どもからお年寄りまで楽しめるイベントを実施、ご当地グルメの開催

○交通機関・道路整備　42.0%

・リニモの値下げ
・Ｎバスで史跡めぐり
・渋滞対策のための道路整備

○自然・緑　33.1%

・自然を残しつつ、グリーンロード沿線に商店を充実
・若者に農業に興味をもってもらう教育

○都市化・景観　33.1%

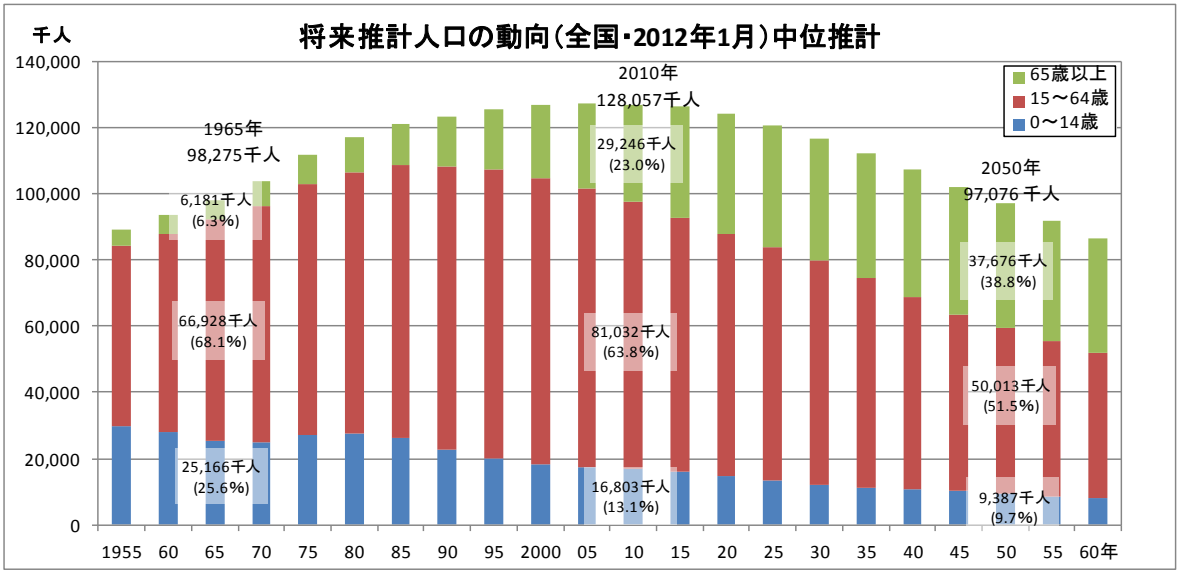
・ショッピングモール
・荒れた雑木林や空き地に店や公共施設を建設

長久手の現状

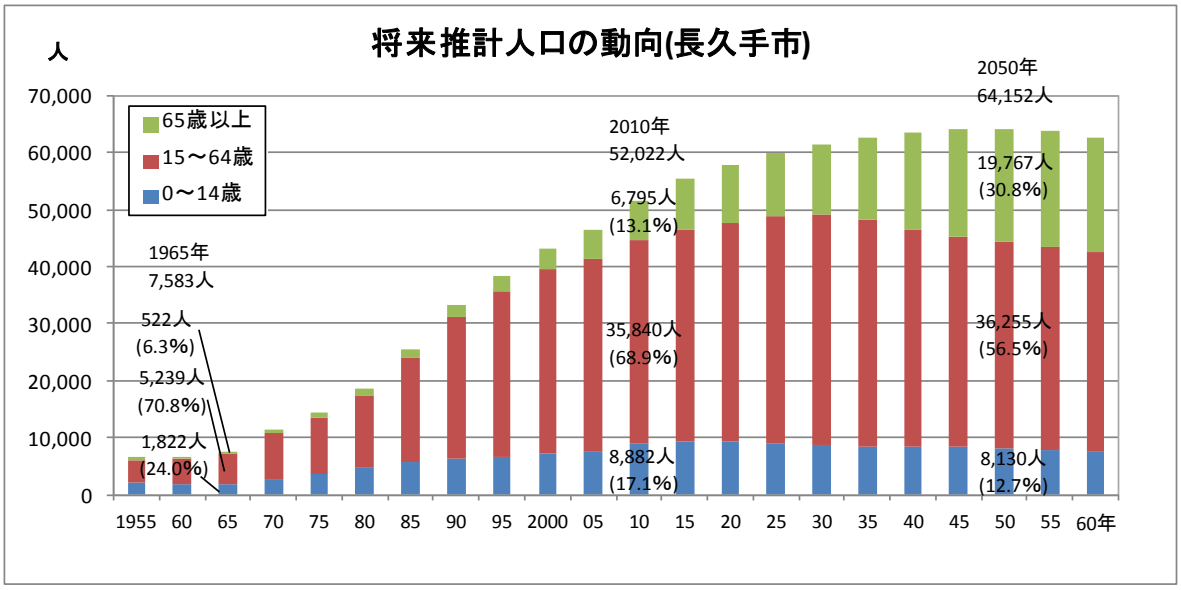
１　人口構造の変化

2050 年頃の日本の人口は高度成長期が始まる頃の人口 9 千万人程度であるが、年齢構成が全く異なり、高度成長期における年少、生産年齢人口が多い人口構成から 2050 年には超高齢社会を迎えます。

長久手市は、全国的にもまれで 2050 年まで人口は増加しますが、人口構成は 0～14 歳の年少人口、15～64 歳の生産年齢人口の減少、65 歳以上の高齢者人口の増加へと変化していき、2050 年を境に人口減少社会に入ると推計されています。



資料：「日本の将来推計人口（2012 年１月推計）」及び「人口統計資料集・Ⅱ．年齢別人口」を元に作成



資料：人口問題研究所の推計に準拠したデータ及び国勢調査を元に作成

２　限られた財源

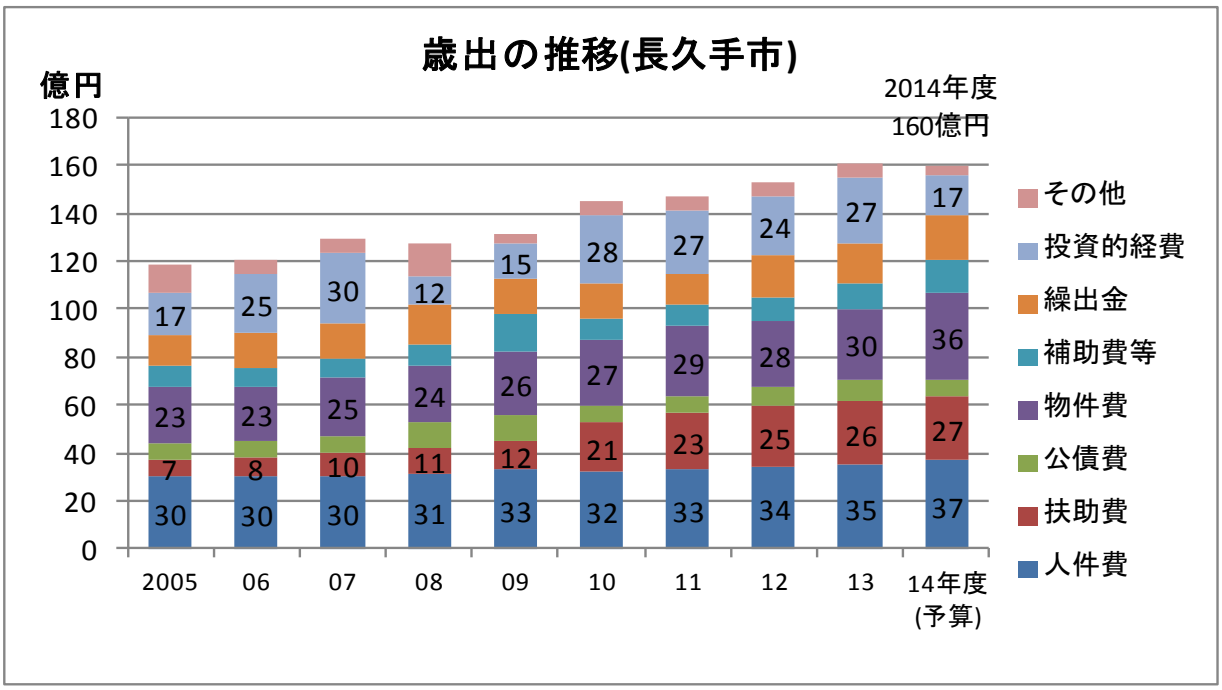
全国的に財政面の制約が進みます。様々な社会インフラが相当経過年数を経たものが増え、維持管理の経費が膨大になると見込まれます。

国民の所得（給与）が減少していくと予測される中、財源が制限されるのは長久手市の場合も例外ではありません。限られた財源の中で、これまでに整備された社会インフラを有効に活用していく必要があります。

建築後 50 年を経過する社会資本割合

	2013 年３月	2023 年３月	2033 年３月
道路橋（約 40 万橋）	約 18%	約 43%	約 67%
トンネル（約１万本）	約 20%	約 34%	約 50%
河川管理施設（約１万施設）	約 25%	約 43%	約 64%
下水道管きょ（総延長約 45 万 km）	約 2%	約 9%	約 24%
港湾岸壁（約５千施設）	約 8%	約 32%	約 58%

出典：国土交通白書 2014



2005～13 年度は決算額、2014 年度は予算額

資料：長久手市

３　恵まれた社会資本

市内には、観光レクリエーション施設として県内有数の社会資本として長久手温泉ござらっせ、愛・地球博記念公園があるのをはじめ、文化・芸術で長久手文化の家があります。

さらに、農業、健康・医療、福祉、ものづくりの各分野で、全国、あるいは県内屈指の社会資本がある。この他にも市内の愛知淑徳大、県立大、県芸大、周辺の大学も含め「知の拠点」ともいうべき社会資本が集積しています。これらの施設の多くで、近年、社会課題を解決するべく産学連携が図られています。

恵まれた社会資本を活かしていくことが、ますます多様化するであろう将来のまちづくりを考える上では重要です。

長久手温泉ござらっせ

健康、福祉、交流がテーマの「長久手福祉の家」に併設した天然温泉。

隣接するあぐりん村とともに名古屋、瀬戸、尾張旭など近郊からの利用者が多い。

愛・地球博記念公園

愛・地球博の跡地に誕生した県内屈指の都市公園。「サツキとメイの家」、大観覧車(東海地方NO1 の高さ)、各種スポーツ施設が備わり、四季折々の花々の美を楽しみ、週末には催し物も多い。

文化の家

1998 開館。独自の取り組みが国から評価を受け、2007 年には JAFRA アワードを受賞。

◆施設の特徴

- 生涯学習的な役割を果たすアートリビング棟と大小２つのホール
- 森のホールの可動式舞台は、様々なイベントに対応できる全国的に希な舞台機構。
- 世界の三大ピアノメーカー２社の各最高ランク機種を所有。
- 稼働率は、近隣の劇場の 50%前後に対し、文化の家は 70～80%と高い。

◆積極的に自主事業を展開（過去３カ年の年平均 140～150 本）

地元アーティストや愛知県立芸術大学とタイアップした教育プログラムが充実、アウトリーチ活動、市民参画プロジェクトも。

◆農業

愛知県農業総合試験場（長久手市岩作三ケ峯）

長久手の地に 1966 年に農業総合試験場として設置。県内 6 カ所の施設の本場として、園芸、畜産、作物など各分野において新たな品種の開発や農業技術などの研究・開発が行われている。

◆健康・医療

愛知医科大学運動療育センター

（長久手市岩作雁又）

1987 年 10 月設置（1988 年 1 月開設）。健康づくりに関わる施設が備わり、各種事業が幅広く行われている。

◆福祉

介助犬総合訓練センター ～シンシアの丘～

（長久手市福井）

全国で初めての介助犬専門訓練施設として 2009 年５月に開設。介助犬を目指す犬達が快適に過ごせるような工夫や、できるだけ「家庭」に近い雰囲気で障がい者がくつろげるよう丁寧に設計されている。

◆ものづくり

（株）豊田中央研究所（長久手市横道）

豊田佐吉翁の遺訓「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」を会社の基本精神として 1960 年に設立。

持続可能で安心な社会の実現を目指し、環境、エネルギー、社会システム、情報、エレクトロニクス、機械、材料など幅広い分野で研究活動が行われている。

知の拠点あいち（豊田市八草町）

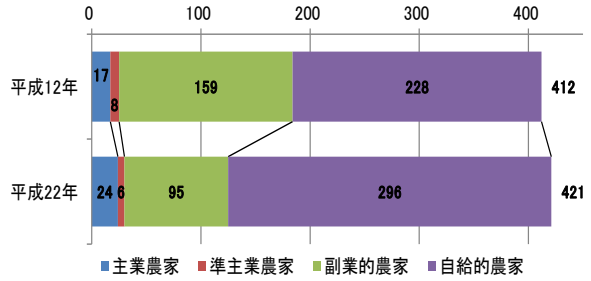
付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発の拠点。ナノテク分析機器を揃える中核施設「あいち産業科学技術総合センター」と、共同利用施設「あいちシンクロトロン光センター」の２施設で構成されている。

４　今有る自然を残す

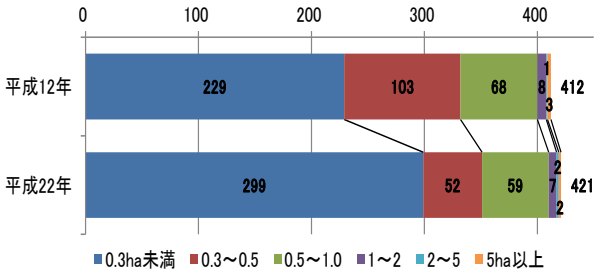
長久手市の特徴として、土地区画整理事業等による計画的な市街地開発と、北部や東部に広がる自然の双方を有し、バランスの取れた市域が形成されています。

特に東部や北部において中心的に営まれている農業は、自給的農家を中心に農家数、耕地面積とも増加おり、市が遊休農地をあっせんして法人、ＮＰＯが参入したり、たがやっせにおける市民農園が開園以降、全区画が埋まっているなど、本市の取り組みにより、都市近郊の農業への取り組みが少しずつ浸透していると考えられます。

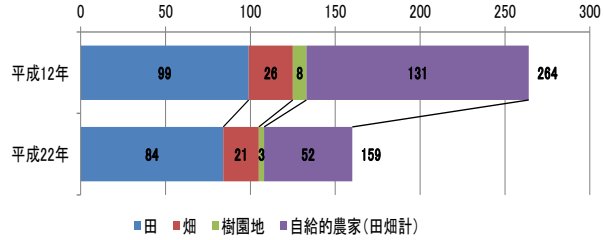
今有る自然を長久手のいいところとして残していくことが重要です。



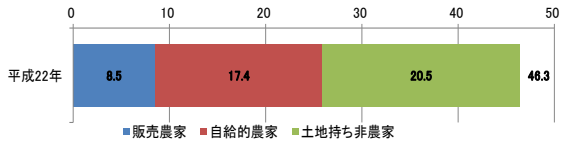
長久手市の農家数（戸）



長久手市の経営耕地規模別農家数（単位：戸）　※自給的農家は0.3haに含む



長久手市の経営耕地面積（ha）



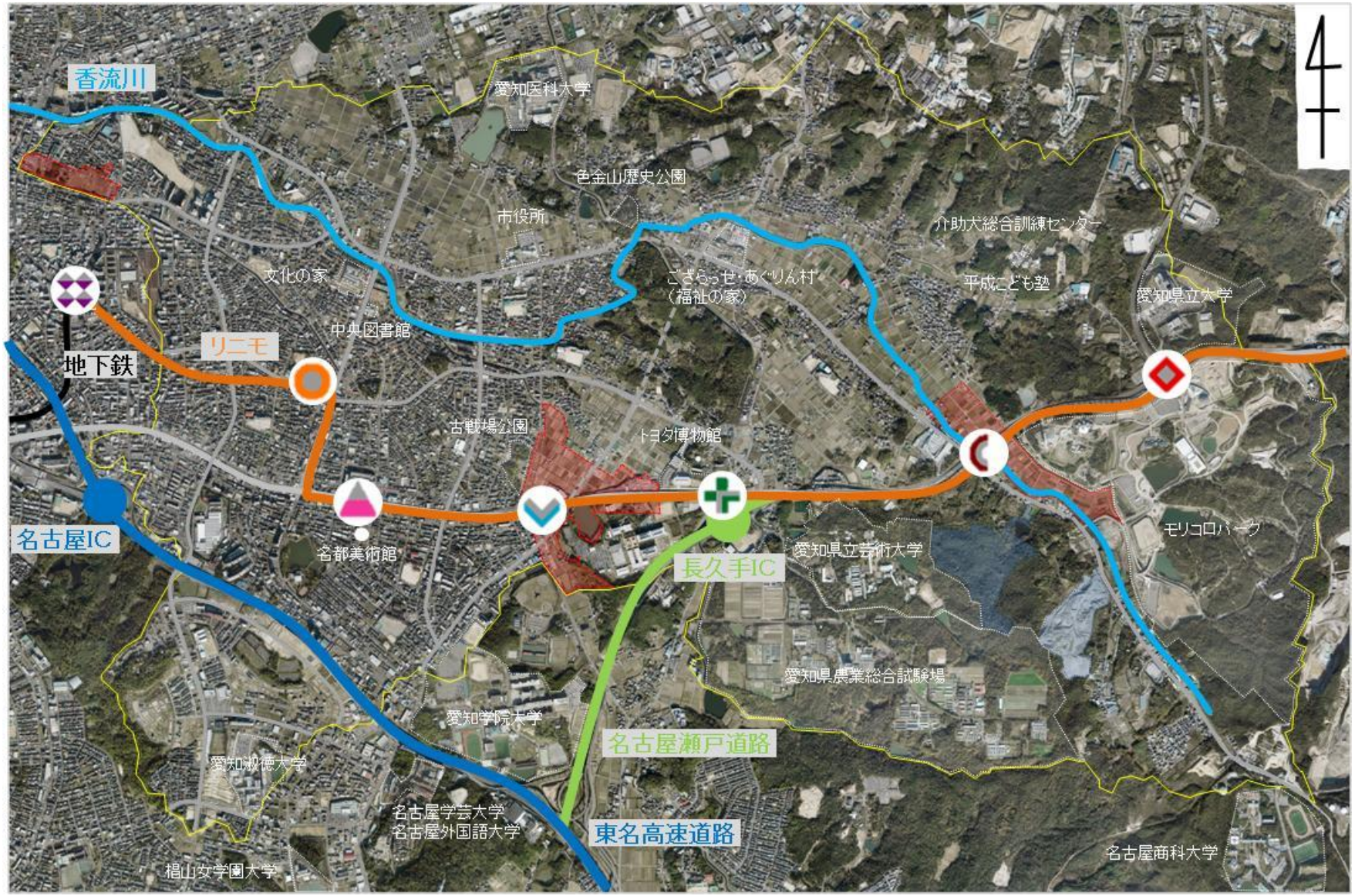
長久手市の耕作放棄地面積（ha）

耕作放棄地対策

- 前熊堀越地区において、農地のあっせんを行っており、これまでに約 12ha のうち約 8.8ha の耕作放棄地が解消されました。（2010～継続）
- 前熊堀越地区において、景観向上、土づくり、雑草防止等のため、耕作していない畑にコスモスや菜の花を植えました。（2008～2013）

市民農園 ふれあい農園 たがやっせ

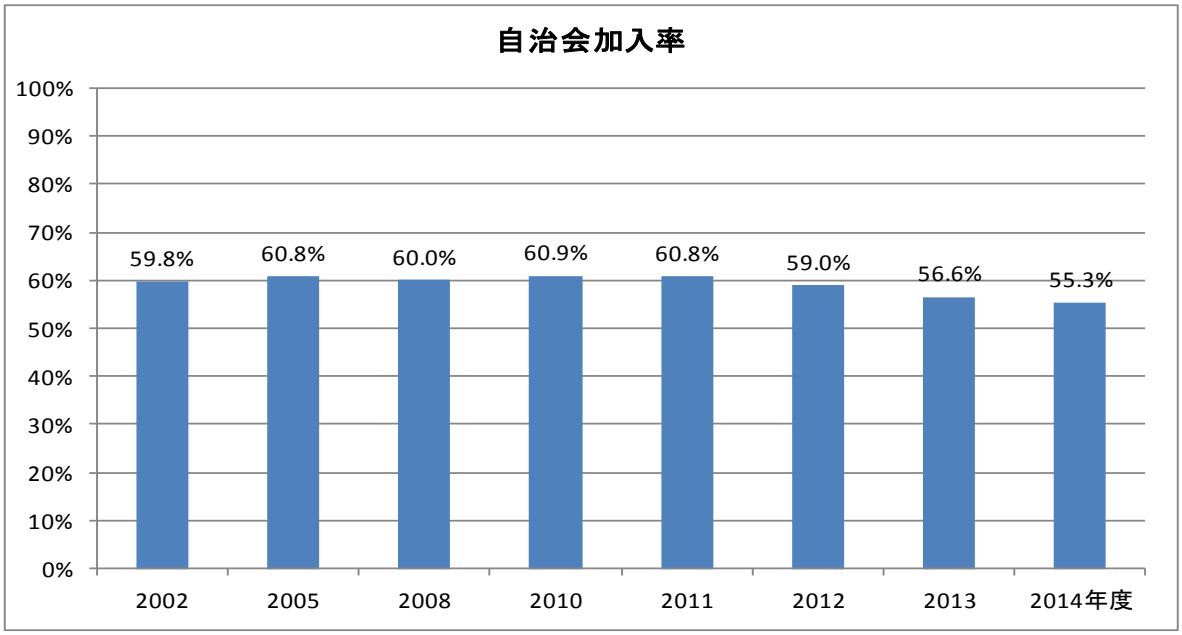
- 2003 年開園。30 ㎡の区画で、利用者同士交流しながら、趣味的に農を楽しめます。
- 地元農業者による団体「たがやっせサポートクラブ」がモデル農園の作付け、栽培講習会のほか、随時利用者へ栽培指導を行っています。
- 開園以来、66 区画すべて利用されています。


香流川
愛知医科大学
色金山歴史公園
市役所
介助犬総合訓練センター
文化の家
ござらっせ・あぐりん村
（福祉の家）
平成こども塾
愛知県立大学
中央図書館
リニモ
地下鉄
古戦場公園
トヨタ博物館
名古屋IC
名都美術館
長久手IC
愛知県立芸術大学
モリコロパーク
愛知県農業総合試験場
愛知学院大学
名古屋瀬戸道路
愛知淑徳大学
名古屋学芸大学
名古屋外国語大学
東名高速道路
名古屋商科大学
椙山女学園大学

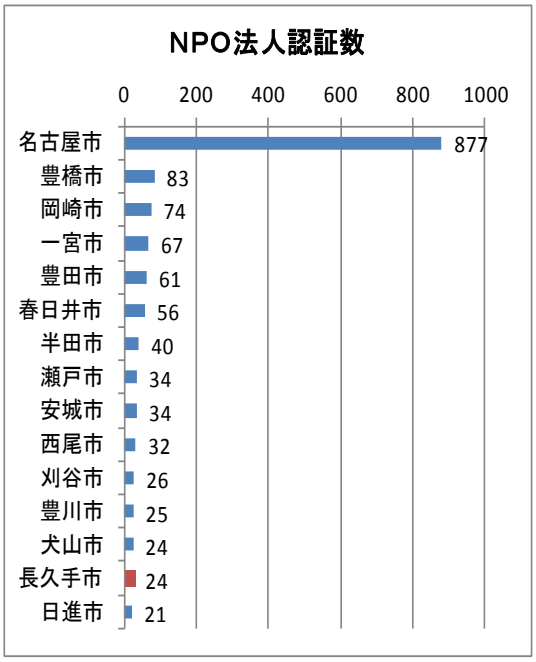
５　コミュニティ、人材

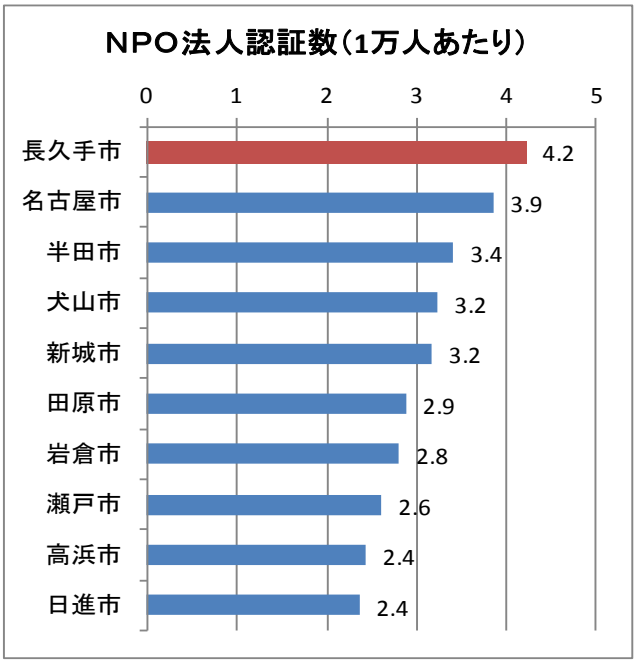
長久手市の場合、市外からの転入による人口増加が続いている半面、今後のまちづくりではコミュニティの役割が重要となってきます。しかし、自治会加入率は近年低下しており、半数程度にとどまっています。

その一方で、ＮＰＯ認証数は都市規模の割に多く、様々な分野のＮＰＯが活躍しており、地域でのまちづくりの担い手として期待されます。



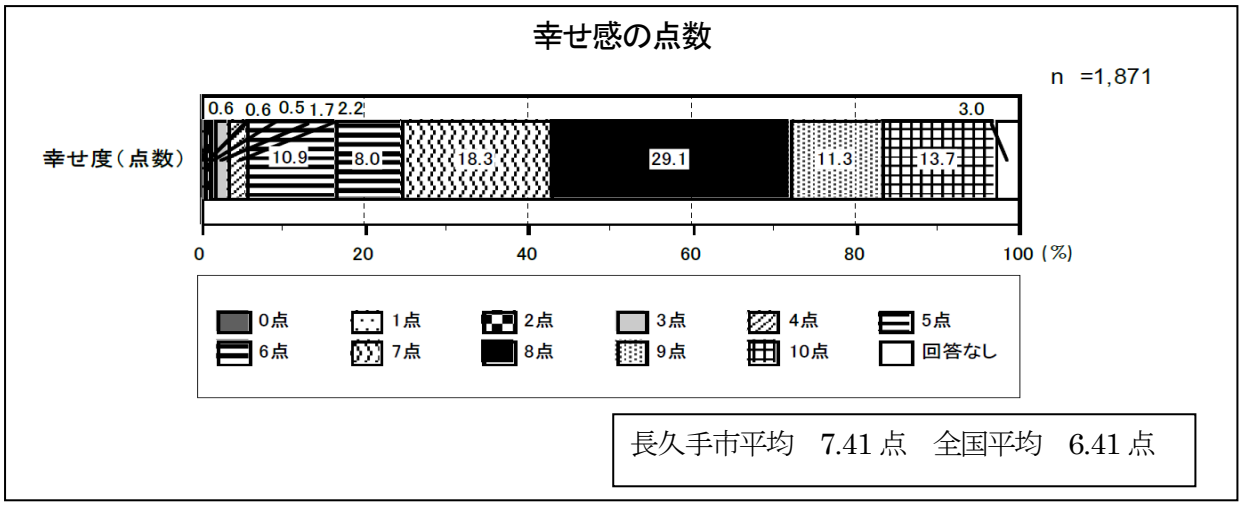
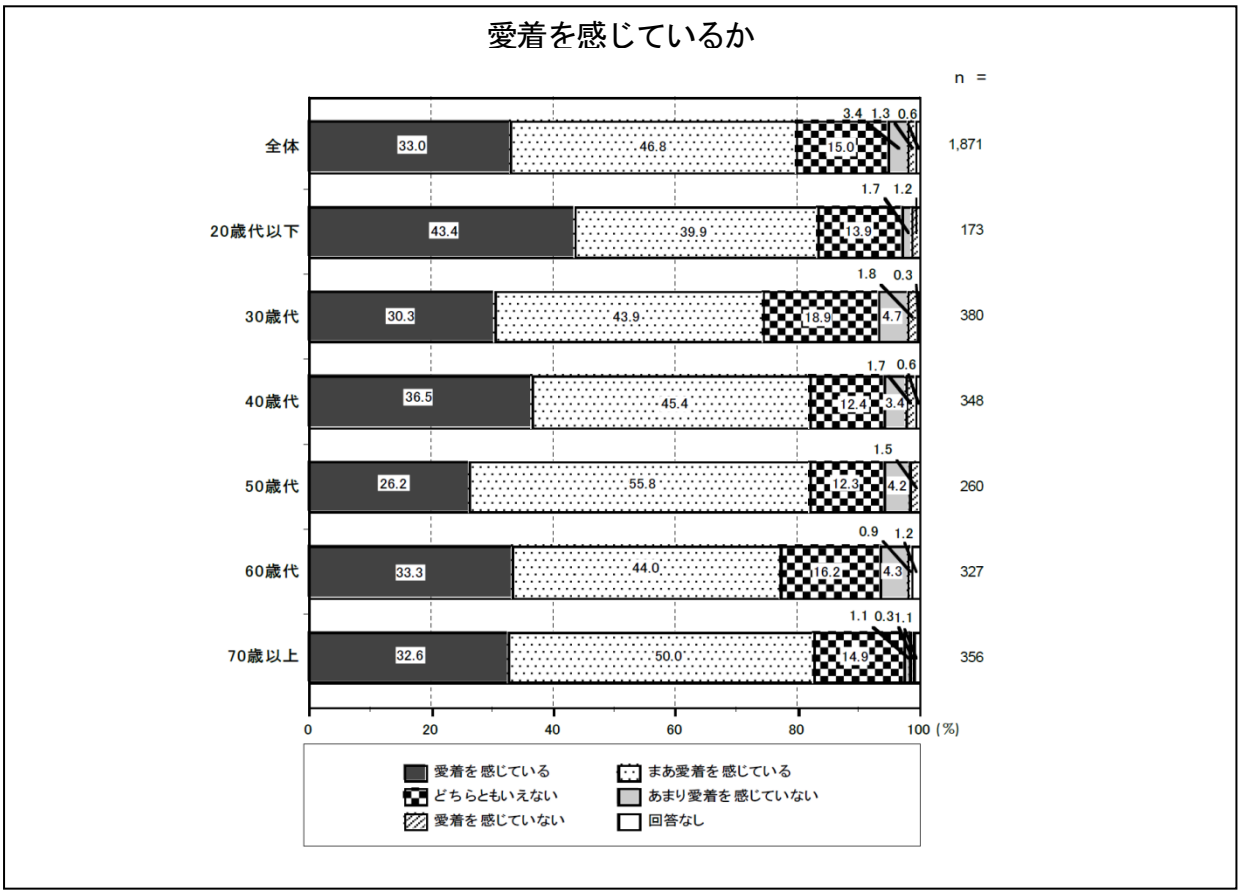
資料：長久手市





資料：あいちＮＰＯ交流プラザ　特定非営利活動法人の申請認証状況（市町村別、2014 年 12 月 31 日現在）
愛知県人口動向調査（年報）2014 年を元に作成

６　誇りを感じてもらえるために「幸せのモノサシ」

住む人も、働く人（市外に住んで働きに来る人）も、長久手で住んでいる・働いていることを誇りに感じてもらえることが重要です。

その意味で、長久手市では昨年末に「ながくて幸せ実感アンケート」を実施しました。その結果をみると、「幸せ」の点数が全国より高くなっています。一方、愛着を感じている人は 20 歳代で多いのに対し、30 歳代で少ないのは長久手の課題と言えます。